



◆ ゲイブンの学生生活 ◆

地域連携プロジェクトと サークル活動でたくさんの人と音楽を楽しんでいます

3年 日馬 楓花さん 長野県伊那弥生ヶ丘高等学校(長野県・伊那市出身)

芸術文化を通して社会貢献活動をするのに関心があったため、中学・高校と続けていた吹奏楽の経験をいかして、1年次から「ハマルおんがくプロジェクト」(実践科目の地域連携演習プログラムのひとつ)に参加しています。外国人居住者の多い浜松において音楽を使って外国にルーツを持つ子供たちの居場所を作る活動で、今は学生メンバーの代表を務めています。地域に飛び込んで子供たちや地域の方と交流することができ、やりがいを感じています。

吹奏楽は学内のサークルでも続けており、定期演奏会の実行委員長として現在12月の本番に向け企画を進めています。

学内外、年齢問わず多くの人と関わりながら、充実した学校生活を送っています。



◆ 卒業生の声 ◆

地域のホールを「いつもの場所」に
文化芸術を通して



藤巻 嘉月 さん

文化政策学部 芸術文化学科 2020年度卒業 > 株式会社共立 施設開発事業本部 企画課

高校の頃から「文化芸術」と「仕事」が一番身近で結びついた「ホール」で働きたいという思いがありSUACへ。夢が叶い、公立文化施設の管理運営から文化振興事業までトータルマネジメントする会社で、施設の管理運営に関わる企画・提案業務を行っています。在学中は、芸術文化政策やアートマネジメントなどの政策系から、音楽、演劇、美術などのコンテンツ系までバランスよく文化芸術の領域を全方位で学びました。ホスピタルアート活動でプロジェクトの企画・提案、運営までトータルで携わり、浜松市のアートセンターではアルバイトを通して大学での学びを現場で実践。文化芸術に根ざした浜松で学べることは大きな魅力だと思います。今後は受付事務や事業企画などホールのマネージャー的な現場の仕事も経験し、経営的視点も踏まえた夢とリアリティを両立した企画・提案をすることが目標です。全国のホールを飛び回って知見を広め、将来は、ホールでのワークショップなどを企画し、公園のように人が集まる場づくりがしたいと考えています。

卒業生の主な進路

芸術文化に係る仕事	<p>■文化財団、民間劇場、指定管理者(企業) (株)エスピーエスタクミ、(株)共立ファシリティ・マネージメント、(株)ケイミックスパブリックビジネス、サントリーパブリシティサービス(株)、(株)シグマコミュニケーションズ、(株)博多座、(株)ヤタロー、(独)日本芸術文化振興会、(公財)静岡県文化財団、(公財)三重県文化振興事業団、(公財)静岡市文化振興財団、(公財)浜松市文化振興財団、(公財)横浜市芸術文化振興財団、(公財)名古屋市文化振興事業団、(公財)しまね文化振興財団、(公財)豊橋文化振興財団、(公財)豊田市文化振興財団</p> <p>■実演団体、コンテンツ制作(舞台芸術・映像など) (株)アリス館、(株)テレビ山梨、(株)SBSプロモーション、(株)キョードー東京、(有)劇団かかし座、(株)静岡新聞社・静岡放送(株)、(株)宝塚舞台、人形劇団むすび座、(株)ピーエーシー、浜松ケーブルテレビ(株)、(株)若尾総合舞台</p> <p>■学芸員資格関連 磐田市香りの博物館(学芸員)、小泉八雲記念館(学芸員)、(公財)平野美術館(学芸員)、西尾市立一色学びの館(学芸員)、和光市役所(学芸員)、日本通運(株)関東美術品支店、(株)スペース、(株)丹青ディスプレイ、(株)墨仁堂</p>
その他主な進路	静岡県庁(行政・警察行政)、静岡市役所、浜松市役所、掛川市役所、三島市役所、豊橋市役所、岐阜市役所、松本市役所、スズキ(株)、(株)石舟庵、チャコット(株)、(株)デンソー、浜名湖電装(株)、矢崎総業(株)、遠州中央農業協同組合、(株)静岡銀行、(株)常陽銀行、第一生命保険(株)、日本生命保険(相)、浜松磐田信用金庫
大学院進学	静岡大学、静岡文化芸術大学、名城大学、立命館大学



知と実践の
両面から

多様な分野の アートにアプローチ

Department of Art Management

専門科目
授業紹介



劇場プロデュース論

4年 鷹森 千佳さん

浜松市立高等学校(静岡県・浜松市出身)

この講義では、学内での舞台制作や学外での実践を行います。学内ではプロのアーティスト3人にインタビューをしました。入学してから学んできた劇場の運営についての知識を活かし、質問や役割分担を1から考えました。学外では「天使にラブソングを」の劇場スタッフとして、お客様を席にご案内する仕事を体験しました。1人の劇場スタッフとして運営に関わったことは、貴重な経験でした。



アートマネジメントB

3年 鮫島 海里さん

鹿児島玉龍高等学校(鹿児島県・鹿児島市出身)

この授業では、一般企業や公共団体で用いられるマネジメントの基本的な理論を発展させ、特徴的な形態を持つ文化・芸術団体をどのように運営すべきかを学びます。講義内容を基に自身の意見を準備し、全4回のケーススタディに臨みます。受講生との議論の中で自分に無かった視点に触れ、よりよい結論が出せた時、講義を深く理解できたという充実感が得られます。



現代芸術論 A

2年 安部 美佑さん

西尾高等学校(愛知県・西尾市出身)

この科目では、難解だと思われがちな現代美術について学びます。現代美術の作品は、これまでの西洋で作られた美術の考え方を問い直すような、作品を通じた芸術家たちの意思表示が表されています。現代美術という概念が登場する背景には、様々な社会の変化や歴史の流れがあり、時代とともにその変遷を見ていきます。沢山の現代美術作品が例に挙がるので、見ていてとても楽しいです。



芸術表現 A

1年 小林 紗和子さん

北海道旭川東高等学校(北海道・旭川市出身)

この授業では、口頭伝承でつたわるインドネシア、バリ島のガムラン音楽の実践を通して世界の音楽の多様性を学びます。実際に創作の場を体験することで、芸術に携わる人間の心構えを身に付け、芸術の本質を考えることがねらいです。複雑な旋律と力強いガムランのリズムには心癒されます。また器楽演奏だけでなく舞踊も練習するため、より全身でインドネシアを感じることができます。

カリキュラム紹介

授業群

日本から欧米・アジア、伝統から現代まで多様な美術、音楽、演劇等と、それを支える社会システムを学ぶことができます。知識面、実践面どちらの学びも大切にする、充実したカリキュラム。

文化と芸術

- 文化と芸術
- 音楽史
- 演劇史
- 美術史(西洋)
- 美術史(日本・東洋)
- 現代芸術論
- 芸術特論
- 鑑賞と批評

政策とマネジメント

- 芸術文化政策の理論
- 芸術文化政策の国際比較
- 現代社会と芸術文化
- 文化施設の管理と運営
- アートマネジメント
- 文化財保護政策

芸術運営の実践

- 劇場プロデュース論
- 展示プロデュース論
- 舞台運営論
- 舞台技術論
- 保存と修復
- 博物館実習
- 地域連携演習 など

取得可能な資格 | 博物館学芸員 | 図書館司書 | 社会調査士

2025年度

新カリキュラム [始動]

学科横断型プログラム「オプション・スタディーズ」がスタートし、更に多角的な学びが可能になります。

詳しくはこちら

カリキュラム
全体の紹介



新カリキュラム
紹介



教員紹介

美意識を視野に入れた企業人や公務員、そしてビジネス感覚をそなえた文化・芸術関係の人材を育てます。



梅田 英春 教授 | 民族音楽学

「世界音楽」は、現代の多様化する文化や社会の中から「音楽」を見つめるキーワードです。

バリ島の音楽や芸能について研究。ガムラン音楽の演奏者としても国内外で活動を行う。



片桐 弥生 教授 | 日本美術史

美術作品が制作された当時、いかに鑑賞されていたのかを考えることも大切です。

源氏物語や和歌などの文学と絵画の関係を中心に研究。



佐藤 良子 准教授 | 舞台芸術政策論/地域文化振興論

文化芸術に関わる法・制度を知り、現場を担う方々の想いに触れて、音楽や舞台芸術が息づく地域の未来を構想しましょう。

音楽や舞台芸術などの活動を持続可能なものとするための政策や地域社会との関わり、その担い手等について研究。



田中 裕二 准教授 | 博物館学/日本近代史

博物館や美術館には学芸員だけでなく、多彩なプロフェッショナル人材が必要です。

博物館運営や企業の芸術支援について研究。本学赴任前は公立博物館に20年勤務。



田ノ口 誠悟 講師 | 西洋演劇史

台詞劇、ミュージカル、オペラ、バレエなどの西洋独自の舞台芸術は、いずれも社会と深い関係を持っています。その関係について作品分析を通して考えてみましょう。

フランスを中心に欧米の演劇、舞台芸術を研究。同時に、海外戯曲の翻訳家として演劇創造の現場で活動している。



南田 明美 講師 | 共生社会とアート

どのように私たちは「声なき声」に寄り添うことができるのだろうか。「芸術の力とは何か」について一緒に考えてみませんか。

当事者性を大切にしながら、芸術文化活動を通して「皆が憩える場」「居場所」「心の安全地帯」を創造していくことについて、国内外でアクションリサーチや参加観察を通して考察中。



稲山 玲 講師 | 日本演劇史

演劇はコトバ、身体、美術、音楽…と多様な要素から成り立つ芸術です。自分なりの角度から演劇について考えてみましょう。

戦後日本の劇作家たちが生み出した作品を研究。テキスト、演出、社会背景、制作環境等を調査し、総合的に作品を考察する。



奥中 康人 教授 | 音楽学

たくさん本を読み、いろいろな音楽を聴くことは、未来の自分への投資と考えるとよいでしょう。

唱歌、ラップ、鼓笛隊、タカラヅカなどの研究を通して、日本の歴史や現代社会について再考。



上山 典子 教授 | 西洋音楽史

私たちの日常には音楽があふれています。そんな社会と音楽の関係について考えてみませんか。

クラシック音楽を通して西洋の音楽文化を探求中。



高島 知佐子 教授 | 芸術団体の経営/アートマネジメント

芸術文化団体の長期的・創造的な活動には、「経営」のあり方を考えることも大切です。

長期的存続をテーマに日本の伝統文化を担う組織等を研究。



谷川 眞美 教授 | 現代美術論/美学

現代美術は今を生きる私たちの美術。社会の動きと密接にかかわっています。

現代美術に関する評論や展覧会評を手がけるほか、展覧会企画にも携わる。



永井 聡子 教授 | 劇場・舞台芸術史/演劇・劇場プロデュース論

「芸術作品」をリードする劇場運営、舞台芸術の世界を研究していきます。

演劇史や公演、劇場プロデュースの分野を研究。劇場のプロデューサーとして勤務後、本学に着任。本学創立10周年記念公演ミュージカル「いとしのクレメンタイン」を企画。



藪田 淳子 講師 | 西洋美術史

美術は知識を得ると、さらに深く楽しんで鑑賞できます。作品とおして、美術と歴史や社会との関係を考えてみませんか。

16世紀のドイツ美術を中心に、キリスト教美術や風景画を研究。本学着任前は美術館の学芸員として展覧会を企画し展示。